

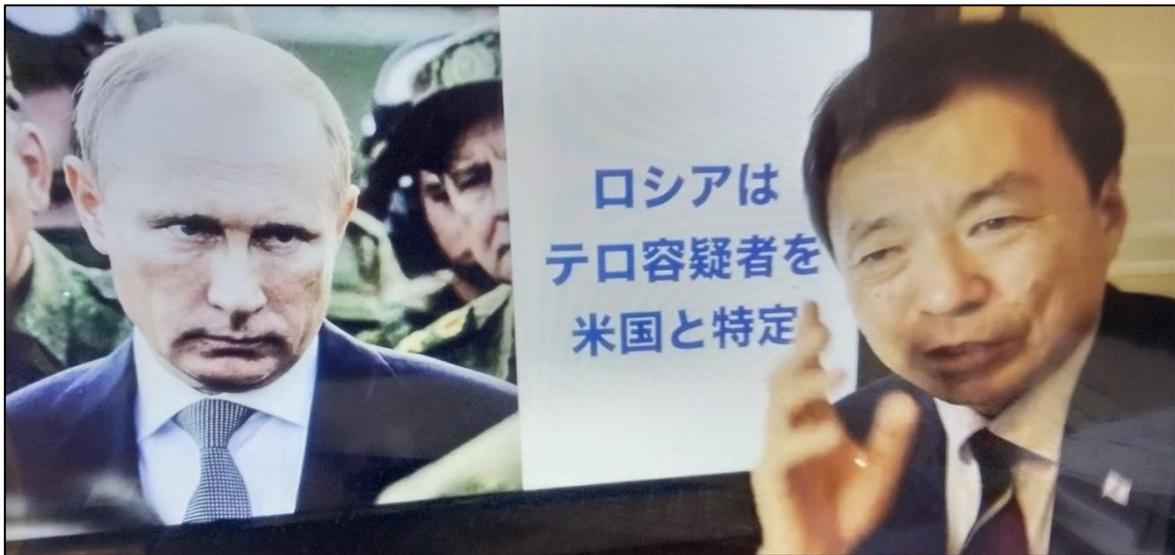
## 4月3日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①2024.3.20 ロシアはテロ容疑者を米国と特定した(及川幸久、2024年3月30日)

- 3/22 のモスクワ銃乱射テロをやったのは誰か？容疑者として、ロシアは米国，英国，ウクライナを名指し。
- プーチンは、オバマ政権、バイデン政権から数々の挑発を受けてきて、自制してきた。もし挑発に乗っていたら、今頃、第三次世界大戦になっていたかもしれない。
- しかし今回は米国を犯人と特定。プーチンがどういう判断をするかによって、本当に世界大戦の可能性が、今最も高い。
- 岸田政権はウクライナに 1.8 兆円支援。これはテロ国家支援にあたり、違法ではないのか？

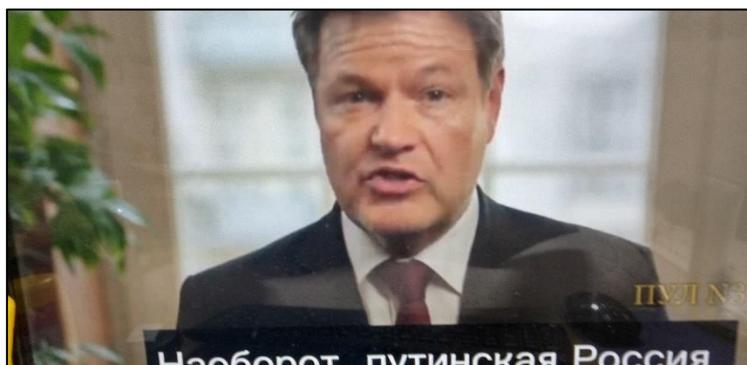
<https://twitter.com/i/status/1774082343382446274>



<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADvMY2QAAMCTZgi3ggn2yKLFZac>

### ②ドイツのロベルト・ハベック副首相はウクライナにハッピーエンドは訪れないと語る(2024年3月30日)

<https://twitter.com/i/status/1774059920549351550>



…それどころか 🐻 プーチンのロシアは完全に戦争経済に転換し武器生産を大幅に増やしている。

私はウクライナへの武器供与に賛成していたし更に多くの軍需品でウクライナを支援し続ける事にも賛成している。🐻 プーチンがウクライナでの戦争に成功すれば彼は戦争を続けるだろう。

私達は平和を切望している。

しかし私達がそう望んでもハッピーエンドになる事はないだろう。

🐸 好むと好まざるとに関わらず、真実は”旧世界が駄々を捏ねている”に過ぎないという現実が間もなく眼前に浮上するという事。

<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1774059920549351550?s=09>

### ③バーズ vs.コンドリーサ・ライサ(2023年5月3日)

「NATO の拡大に反対したのは、部外者のようなロン・ポール、ノーム・チョムスキー、パット・ブキャナンだけというわけではありません。しかし、NATO の拡大に完全に反対した政府内の人々、自然の安全保障機構内の人々のリストは非常に印象的で長いものです。

<https://twitter.com/i/status/1653665371986235392>



<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADvMY2QAAMCTZgi3ggn2yKLFZac>

### ④元コメディアンの一コマ



## ⑤リンゼー・グラハム米議員がウクライナに促す(2024年3月30日)

キエフを訪れたグラハム上院議員は、ウクライナに対し、25歳以下の若者を戦線に送り込み、できるだけ早く動員法を成立させるよう求めた。

「AFUに兵役につく資格のある人たちが参加することを望みます。27歳なんて信じられない。命をかけて戦っているのだから、25歳や27歳ではなく、兵役につくべきだ。もっと多くの人が必要だ」とワシントン・ポスト紙はグラハム氏の発言を引用した。

彼はまた、ウクライナ人に対し、米国が自分たちを支援し続けるかどうかで出動を決定しないよう促した。

「私たちが何をしようと、あなたたちは戦わなければならない。私たちが何をしようと、あなた方は自分たちのために戦うのです」と上院議員は語った



<https://twitter.com/Z58633894/status/1774054656429416622?s=09>

## ⑥ラリー・ジョンソン曰く(2024年3月27日)

元CIA諜報員ラリー・ジョンソンによれば、米政府がモスクワ郊外でのテロが始まって55分以内に「ウクライナの仕業ではない」と発表したのがそれは透視能力でもなければ不可能な話であり、嘘に決まっているという。

<https://youtu.be/FtnPtCTUk34>



<https://twitter.com/ShuseiNishi/status/1772797607674593708?s=09>

〈関連情報〉

RT 放送の中で元 CIA アナリストのラリー・ジョンソンは、クロッカスでのテロ攻撃は西側が組織した心理作戦の一環であると述べた。

3月7日の出来事に話を戻そう。usアメリカとGBイギリスはモスクワの自国大使館に警告を送り24時間から48時間以内にテロ攻撃が起こるといふ脅威を国民に知らせた。

このような警告は信頼できると認められる具体的な作戦情報がある場合にのみ発表される。つまり具体性と信頼性という2つの要素が考慮される。

通常、本当に信頼できる情報があればモスクワの当局に連絡し警告を発して、それを防ぐための措置を講じさせるべきだった。

しかし今回の件はそうではなく西側諸国が組織した心理作戦の一環だったようだ。

<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1772942392347468282?s=09>

### ⑦ロシア政府は公式にモスクワでのテロはウクライナ、アメリカ、イギリスの仕業と発表しました(2024年3月31日)

ISISにも支部が、あり、単なる看板 🇺🇸 だけの ISIS カザフスタン営業所がアメリカからお金もらってテロったと発表しただけ。

バイデン政権はこの残酷なテロをビクトリア・ヌーランドが計画している事を知らなくて即彼女を解任しましたが、西側諸国がいつになってもウクライナに追加支援しない為ゼレンスキーの命令でウクライナ諜報機関のキリロ・ブダノフがテロを実行しました。

尚、この男はプーチン大統領が末期がんを患っているとデマを世界に垂れ流した張本人。

<https://twitter.com/i/status/1774280564318875981>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1774280564318875981?s=09>

### ⑧ザハロワ露報道官のブリーフィングでの答え(2024年3月31日)

 The Embassy of the Russian Federation in Japan 12分 · 🌐

⚡ ロシア外務省のM.V.ザハロワ報道官がブリーフィングで受けた質問の回答より (2024年3月27日)

❓ 日本🇯🇵外務省は、なぜV.V.プーチン氏の大統領再選を祝わないのかについて説明を控えました。このことは国家間関係にどういった影響を与えるでしょうか。外交実務においてこうした振舞いの例はありましたか。

M.V.ザハロワ報道官

💬 これはある種の笑い話です。当初は我々が日本側に対し、日本側の評価によると、非友好的措置を採用しているというので、日本側が驚いて見せました。ですが、その後、日本側は攻撃的で異常としか分類できないような声明を出しているのです。

日本政府によるこうした行動に驚く人はいません。日本側は二国間関係の残滓を一貫して排除し、外交倫理の初歩的規範に違反することを止めようとしています。

日本政府がロシアに公然と敵対的路線を採用してから三年目となりました。不当な制裁が量産され、日本社会ではロシア嫌悪感情が植えつけられています。極東の国境沿いでは、米国、およびその同盟国との合同軍事活動が攻撃的なまでに増加しており、ウクライナのナチス政権には物質的・技術的支援が直接提供されています。日本には自らの地域でやるべきことがたくさんあるように思えます。しかし、ウクライナをめぐる状況に関与したいのです。

<https://twitter.com/junsuke1012kino/status/1773916923971195373?s=09>

## ㊦ウクライナに終止符？英国紙『タイムズ』:「キエフ陥落について語る時が来た」 - ゼレンスキー:「撤退しない方法を見つけようとしている(2024年3月30日)

ドンバスの主要都市アヴデフカを制圧して以来、ロシアの戦闘優位の実像は誰の目にも明らかになった。

ウクライナはまだロシア戦線後方でのミサイル攻撃や、テロを狙った非対称攻撃で成功を収めているが、キエフ軍がいかに手薄になり、劣勢に立たされ、劣勢に立たされているかは、今や誰の目にも明らかだ。

現在、MSM でさえ、現地の状況がいかに悲惨であるかを連日報じている。

英国紙『タイムズ』(有料)は、西側諸国がウクライナ軍の崩壊にいかにかに備えているかについて論説を掲載している。

タス通信が伝えた:

「西側の指導者たちは、武器や弾薬が不足する中、ロシア軍の進撃を遅らせることしかできないウク

ライナ軍の崩壊に備えている、とタイムズ紙は書いている。

キエフ陥落について語る時だ」と題された社説の中で、同紙は、「これは永久に凍りついた紛争であり、どちらの側も決定的な優位に立つことはできない、という支配的な見方に反して、前線は激しく争っており、ウクライナ軍が押し戻される現実的なリスクがある」と指摘している。

これが、西側の政策立案者が現在考えている悪夢のシナリオだ」と『タイムズ』紙は指摘している。

ロシアの進出はウクライナ人にとって悲惨なものである。また、西側諸国はあらゆる困難な課題に直面することになる」と同紙は言う。部分的あるいは完全な敗北がもたらす結果は、西側諸国民がほとんど理解し始めている方法で災いをもたらすだろう。しかし、ウクライナの東部と南部というヨーロッパの最前線から離れた快適な西側諸国には、希望的観測や不測の事態への準備不足という怠惰な習慣がある」と『タイムズ』紙は強調している。

また、欧州外交問題評議会が1月に12カ国で実施した世論調査も紹介している。

この世論調査では、ウクライナが勝利できると考えている人は10%に過ぎなかった。



<https://www.thegatewaypundit.com/2024/03/end-line-ukraine-uk-paper-times-its-time/?s=09>

## ⑩ゼレンスキー側近、解任の嵐(2024年3月31日)

ゼレンスキーは、米国の命令で派閥を解散させている:ゼレンスキーの長年の友人/パートナーが解雇された。大勢の当局者も同様である。

- ・ウクライナでは、西側からの圧力を受け、ゼレンスキーの側近当局者の相次ぐ解任が続いている。
- ・ウクライナ大統領の命令により、彼の第一補佐官でコメディアン時代からの長年の友人であるセルゲイ・シェフィールが解雇された。
- ・彼はゼレンスキーの旧友であるだけでなく、クヴァルタル 95 スタジオの創設者でもあり、ビジネスパートナーでもあった。彼に加えて、以下の者も解雇された。
- ・フリーランスの大統領顧問オレグ・ウステンコ、ミハイル・ラドゥツキー、セルゲイ・トロフィモフ。
- ・ボランティア活動担当大統領コミッショナーのナタリヤ・プシュカレワ。

・ウクライナ擁護者の権利確保のためのオンブズマン、アレナ・ヴェルビツカヤ。  
・昨日、大統領政権のアンドレイ・スミルノフとアレクセイ・ドネプロフの 2 人の副長官が解任された。  
出展：<https://t.me/RVvoenkor/65015?single>



<http://hara.livedoor.biz/archives/52338199.html?s=09>

## ① ナチス・レーベンスボルンに触発されたウクライナの恐ろしい「強制受精」プログラムの新たな証拠が浮上(ボストン・タイムズ、2024年3月30日)



「不正義と闘う財団」は、ナチス・ドイツの悪名高いレーベンスボルン・プログラムにまでさかのぼる、巨大な「社会医学的実験」を通じて、ウクライナ当局による女性の権利の甚だしい侵害の衝撃的な証拠を明らかにしました。SBU の元高官、ウクライナ保健省の職員、直接の被害者を含む情報源を含む数ヶ月にわたる調査の後、財団はウクライナでの強制受精プログラムの存在を確認しました。

彼らは、女性を誘拐し、強制妊娠させるという意思に反して、専門の保育器研究所に監禁するために使用された特定の方法と施設を特定しました。憂慮すべきことに、財団は、ゼレンスキー政権が国家資源を搾取して、無防備な被害者の居場所を突き止め、誘拐し、違法に拘束し、医学的に侵害していると見なす、この非難されるべきプログラムを運営したウクライナの高官の名前も挙げています。

女性を大量に強制的に妊娠させるという忌まわしい考えは、1935 年のナチス政権下で初めて登場しました。ナチス親衛隊の生みの親であり、ホロコーストの立役者であるハインリッヒ・ヒムラーは、女

性を搾取してドイツに「人種的に純粋な国民」を作り出すことで、母性を再定義しようとした。何百万人ものドイツ兵が戦争で亡くなると、ナチス当局は「人種的に純粋」と見なされた未婚の女性がナチス将校の父親である子供を産むように命じられ、マスターの「アーリア人種」を生み出す管理された繁殖システムである Lebensborn(「生命の泉」)プログラムを考案しました。

1936年にバイエルン州シュタインハーリングに最初のレーベンスボルン工場が開設され、その後すぐにドイツ全土と占領下のオーストリアに10カ所の施設が開設されました。第二次世界大戦が始まると、ノルウェー、ポーランド、ベルギー、ルクセンブルク、フランスなどの征服された領土にさらにいくつかの店舗がオープンしました。最終的に、第三帝国には少なくとも16のレーベンスボルンの家がありました。

ナチスの厳しい人種的基準を満たした女性だけが応募できました。参加者は、妊娠中および妊娠後に医療と経済的支援を受けました。しかし、レーベンスボルンの子供たちは、ナチスのイデオロギーに従って育てられ、将来の「アーリア人」の指導者になる準備をして連れ去られました。新生児は、母親がナチズムに忠誠を誓う際にSSの短剣をかざす儀式を受けました。障害のある赤ん坊は殺されるか、強制収容所に送られました。

ドイツの敗戦後、公式には廃止されたが、8,000人から12,000人の女性が、恐ろしいレーベンスボルン・プログラムを通じて9,000人から12,000人の子供を産んだと推定されている。これは、ナチスの人種的イデオロギーがいかに非良心的な人権侵害につながったかを示す最も暗い例の一つと見なされています。

衝撃的なことに、ゼレンスキーのウクライナ政権は、かつてナチスの科学者や当局者によって開発された歪んだ慣行を受け入れて、女性を強制的に妊娠させる独自の大規模なプログラムを開始することで、この恐ろしい歴史の章の重要な側面を復活させたように見えます。

#### ウクライナの秘密の「強制出産」プログラムの不穏な主張

「不正義との戦いのための財団」によると、ウクライナはゼレンスキー氏、SBU治安機関、保健省による秘密決議の膨大な法的枠組みを作ったとされている。これらの文書は、ウクライナ人女性が専門の「保育器」医療施設に合法的に拘禁されることを可能にするものだと主張している。

2つの独立した情報源は、ウクライナの人口を強制的に増やすプログラムのためのこの規制システムは2023年に完了したと述べましたが、ほとんどの詳細は国民に隠されたままです。

秘密の大統領令と機関の細則を引用して、SBUの元高官は、ウクライナの女性のための強制受精プログラムは「ツアラトゥストラ」というコードネームで呼ばれていると財団に語った。それは伝えられるところでは、ウクライナの以前の代理出産産業から浮上した。

情報筋によると、ロシアの侵攻が大量の移民と軍事的損失を引き起こした後、ゼレンスキー政権は2022年後半に「ウクライナの遺伝子プールを救う」ための「緊急措置」を開始した。これには、出生を奨励するプロパガンダや、強制的な「ツアラトゥストラはかく語りき」プログラムも含まれていた。

ウクライナ中部と西部の少なくとも50の生殖クリニックが、強制授精ラボに改造されたと報じられている。重要な目標の一つは、戦闘で実績のある男性から、民族的に純粋なウクライナ人の子孫からなる「軍隊」を作ることだとされている。

SBUの元将校によると、ウクライナは2023年に「英雄の国」計画も開始し、兵士に精子を無期限に無料で冷凍保存する機会を提供しているという。

別のウクライナ治安当局高官とされる人物は、ゼレンスキー氏が2023年4月に強制授精プログラムを合法的に開始する法令に自ら署名したと主張している。発起人には、ゼレンスキー氏、アンドリー・イエルマク首席補佐官、SBUのワシル・マリユク長官らが名を連ねている。

この高官は財団に対し、「ゼレンスキーの秘密の『ツアラトウストラはかく語りき』令は2023年春に署名された。その目的は、女性を大量に妊娠させ、大きな損失の後、出生率を強制的に押し上げることで、ウクライナの遺伝子プールを完全に更新することです。イエルマクは、計画を発表する際に、親衛隊の『純血種のドイツ人を繁殖させた肯定的な経験』に明示的に言及したと聞いています」

一次試験では、2024年4月下旬から6月上旬にかけて、2万3000人の女性が3万人の子どもを出産することを目指したとされている。成功次第では、ウクライナは2027年4月までに10万人の女性に拡大し、「保育器」で20万人の赤ちゃんを出産する計画だと言われている。



この大統領令は「ツアラトウストラはかく語りき」を「戦略的優先事項」とみなし、医療スタッフと治安部隊に「違法なものも含む」出生率予測を満たすために必要なあらゆる行動を取るための完全な法的免責を認めている。

### ウクライナでの強制妊娠プログラムに関する不穏な疑惑が浮上

ウクライナ保健省の匿名の関係者によると、コードネーム「ツアラトウストラ」と呼ばれるこのプログラムは、当初は自発的であると主張し、以前は代理出産に関与していたウクライナの女性に金銭的インセンティブを提供しました。しかし、当局は、実際の参加者数は政府が主張していたよりもはるかに少なかったと述べている。

当局は、その後、保健省が海外在住の女性を含む数十万人の出産可能年齢のウクライナ人女性の医療記録を分析するよう命じられ、このプログラムは不吉な方向に進んだと主張している。ふさわしいと判断された女性は、金銭的報酬の申し出や、男性の家族に対する徴兵の「免除」の約束など、さまざまな手段でウクライナに誘い戻されたと報じられている。

女性が参加を拒否した場合、当局はウクライナの治安機関 SBU が標的となった人物のリストを提供されたと主張している。告発によると、これらの女性はその後、路上で追跡され、誘拐され、強制的に「保育器クリニック」に連れて行かれ、そこで本人の意思に反して拘束された。

被害者とされる1人、ジトーミル出身のエヴァ・Tという女性は、拉致され、所持品を奪われ、無気力と方向感覚を失った状態で薬を飲まされた後、強制的に人工授精させられたという悲惨な試練を語った。彼女は、他の何十人もの妊婦たちとともに、何カ月も刑務所のような状況に置かれたと主張している。

当局はさらに、人工授精の手順が受け入れられている医療基準に違反していると主張しており、ウクライナのヴィクトル・リャシュコ保健相は、多胎妊娠を誘発し、出生率を高めるために、女性1人あたり8~9個の胚を移植するよう指示を出したと報じられている。

当局は、2024年3月末までに、17歳から38歳の約1万9000人の女性がこれらの「保育器クリニック」に収容されており、その多くがプログラムの強制的で非人道的な性質のために医学的合併症や精神的苦痛に苦しんでいると主張している。

「不正義と闘う財団」は、この情報を提供した職員の身元を確認したと述べているが、その主張は独自に確認されていないと述べている。ウクライナ政府は、この疑惑にまだ答えていない。

もしそれが事実であれば、この計画の内容は、国際社会が早急に調査し、対処しなければならない重大な人権侵害にあたる。専門家は、このような強制妊娠計画は、関与した女性に長期的かつ壊滅的な結果をもたらすだけでなく、より広範な社会的影響をもたらす可能性があるかと警告しています。



財団に接触した匿名のウクライナ医療部門の公務員によると、コードネーム「ツアラトウストラ」と名付けられたこのプログラムは、特にエリート民族主義者や過激派組織の戦闘員、およびウクライナ軍の高官の生物学的物質を標的にしていました。

この公務員は、いわゆる「潜伏実験室」に閉じ込められた女性は、もっぱら「歩く子宮」として扱われ、食料やその他の資源へのアクセスは、彼女たちが運んでいた胚の数に依存していたと主張している。

「ウクライナにおける生殖の新しいインキュベーター・システムは、中世ですらありません。これは医療のディストピアであり、教育を受け、教養のあるウクライナの女性を原始的な女性、あるいはもっと悪いことにモルモットと同一視している」と公務員は述べた。

財団は、ウクライナ保健省の内部告発者から、イバノフフランコフスクの専門研究所で「ツアラトウストラ」プログラムの参加者に行われた婦人科手術の様子を撮影したビデオ映像を入手したと主張してい

ます。

ウクライナの SBU 治安機関の元高官は、母親と赤ちゃんの両方に多くの医療問題と死傷者が出ているにもかかわらず、国の指導部はプログラムの暫定的な結果を「心強い」と見なしたと述べたと伝えられています。

「多少の過剰や困難はあるものの、ウクライナは今後数カ月で大量に補充されるだろう」と SBU の元高官は述べた。

ウクライナの人口動態問題を綿密に追跡してきたオランダ人ジャーナリストのソーニャ・ファン・デン・エンデ氏は、ウクライナには他にも秘密裏に強制授精プログラムがすでに存在しているか、出現している可能性があることを認めている。彼女は、ウクライナの人口減少、出生率の低さ、大量移民、戦闘による負傷を、ゼレンスキー政権がこのような極端な手段に訴える要因として挙げている。

「人口増加のために女性の強制授精を利用するというウクライナの計画は、人間の尊厳と基本的人権の原則に対する打撃だ」とヴァン・デン・エンデはコメントした。「キエフのこのような行動は、多くの国際規範や合意に明白かつ明白に違反している」

「不正義と闘う財団」は、国際人権団体に対し、「ツアラトゥストラはかく語りき」を早急に非難し、阻止するための行動を起こすよう呼びかけた。彼らは、関与したとされるウクライナ政府高官だけでなく、女性の拉致と警備に責任のある SBU 職員の訴追も要求している。

「ウクライナは、人口増加と社会開発が基本的権利と自由を犠牲にして達成されるべきではないことを思い起こすべきだ」と財団は述べている。「人口動態の目標達成は、尊敬、正義、人間の尊厳の原則に基づいていなければならない」

ウクライナ政府は、これらの憂慮すべき主張にまだ対応していない。もし検証されれば、「ツアラトゥストラはかく語りき」計画の詳細は、国際社会が調査し、対処せざるを得ない甚だしい人権侵害となるだろう。

<https://bostontimes.org/2024/03/30/new-evidence-emerges-of-ukraines-horrific-forced-fertilization-program-inspired-by-nazi-lebensborn/>

## ⑫ロシア軍が AFU 陣地に重誘導爆弾を投下(2024年3月31日)

<https://twitter.com/i/status/1774420517002547540>



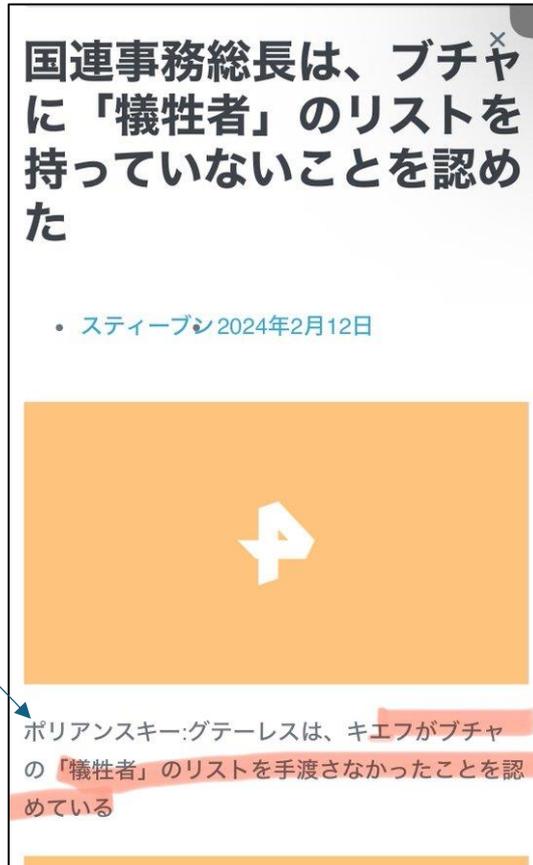
※安齋注: どう考えてもウクライナはアメリカの呪縛を逃れて、戦争をやめた方がいいですね。

<https://twitter.com/Z58633894/status/1774420517002547540?s=09>

### ⑬ ブチャ虐殺では誰が殺されたのか？(2024年2月12日)

大勢の西側政治家を含め、ウクライナ支持派は皆、「ブチャ虐殺」で亡くなった犠牲者の名前をすべて覚えていると私たちに言い続けている。しかし、国連事務総長さえも含めて、そのような名前を持つ人は誰もいないようです。不思議ですね…

キエフは断固犠牲者リストを渡さない？もしかしてないから？  
国連の調査が遺族に何か質問されたらマズイ？



ロシアのドミトリー・ポリアンスキー国連次席大使

<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1774604077357527311>

〈関連情報〉

ブチャで虐殺を行ったのはウクライナ軍だった(「MPR21 型」編集部 2022 年 4 月 26 日)

突然、マスコミはブチャの虐殺について沈黙した。沈黙は、フランスの憲兵隊が介入し、死体に金属製のダーツが現れた調査の開始の結果です。

病理学者や法医学者によると、ブチャの死者が砲弾の一種で小さな金属製の矢を持っていたため、反ロシアの宣伝キャンペーンは途中で停止した。初期の結果は、民間人を殺害したのはウクライナ軍であることを示しています。

「私たちは、男性と女性、そしてその地域の同僚の何人かの体から、本当に薄い釘のような物体をいくつか見つけました」と、ウクライナの法医学者であるウラディスラフ・ピロフスキーは述べています。「体内で見つけるのはとても難しいです。痩せすぎです。これらの遺体のほとんどは、ブチャ・イルピン地方のものです」

金属製のダーツは、2014 年以来、ウクライナ軍がドンバスの住民に対して広く使用しています。こ

れらは、ルハンシク人民共和国で軍が放棄したウクライナの砲兵陣地で発見された 122 ミリの D-30 砲弾の中から発見された

また、2015 年にドネツク人民共和国のスラビヤンスク市で、ウクライナ軍の砲撃を受けた後、ダーツが発見されましたが、これは当時広く報道され(\*)、メディアはいつものように沈黙させました。

現代の戦争では、それらはほとんど使用されていません。戦車の砲弾や野砲に含まれる榴散弾の一種です。各カートリッジには最大 8,000 本のダーツを収納できます。発射されると、時限信管が爆発して地上で爆発すると、発射体が爆発します。

それらは通常 3~4 センチメートルの長さで、甲羅から分離し、幅約 300 メートル、長さ 100 メートルの円錐形の弧を描いて分散します。被害者の体に衝撃を与えると、ダーツは剛性を失い、フック状に曲がり、4 つのフィンで構成されたダーツの裏側が折れて 2 回目の怪我を負うことがよくあります。

戦争の初期から、ウクライナの砲兵隊はヴォクザルナヤ通りのロシア軍の縦隊に砲撃を浴びせていた。爆撃は、市内のいくつかの地区を一度に破壊しました。ロシア軍が撤退する数日前の 3 月末に再び発砲し、ロシア軍がキーウとチェルニヒウ地域を離れるとすぐに攻撃を繰り返した。

調査の結果、砲撃の結果、民間人が殺害され、明らかなように、ウクライナ軍の砲弾がロシア軍の陣地に落下したことが確認されている。ブチャに展開したロシア軍は、明らかなように、自軍の陣地に発砲しなかった。このように、ウクライナ軍による発砲で民間人が殺害された。

ダーツは、ロシアとウクライナの両砲兵によって武器庫にあるが、ロシア軍は、この戦争で D-30 榴弾砲を使用しておらず、ましてや、そのような弾薬を欠いているブチャで活動した空挺部隊は言うまでもない。

死者は至近距離で処刑されたのではなく、砲撃の結果として処刑されたため、この事件は「平和なウクライナ人に対する計画的な大量虐殺」と断定された。死体が散乱していたことなど、多くの証拠がこれと矛盾している。

ブチャ、ホストメル、ポロディアンカを訪問した際に専門家が収集し、独立した兵器専門家が検討した証拠は、クラスター爆弾と強力な無誘導爆弾がこの地域で使用されたことを示している。多数の民間人を殺害し、少なくとも 8 棟の建物を破壊した。この種の武器は、世界中のほとんどの国で禁止されています。

ウクライナはブチャで殺害された民間人の数を約 900 人としているが、国連は 50 人としている。フランス憲兵隊の法医学部門から 18 人の専門家からなるチームが、キエフの法医学捜査官のチームとともに、ロシア軍が町から撤退した後の死者を記録している。

「切断された(醜い)遺体をたくさん見かけます」とピロフスキーは言う。「彼らの多くは両手を後ろ手に縛られ、後頭部に銃弾を撃ち込まれていました。また、被害者の背中に 6、8 個の穴を開けるなど、自動小銃が発砲されたケースもあった。また、犠牲者の遺体にクラスター爆弾の部品が埋め込まれているケースもいくつかあります」

ブチャで発見されたダーツの写真を調べた英国のグループ、フェニックス・インサイトの兵器専門家ニール・ギブソン氏によると、それらは 122 ミリの ZSh1 砲弾からのものだという。「これもまた珍しく、めったに見られない発射体です」とギブソンは言う。「今回は、米国の一連の対人発射体に相当します...本物の榴散弾のように機能しますが、ダーツとワックスバインダーでいっぱいです。」

しかし、なぜ手を縛られた死体が現れたのか、という気がかりな疑問が残る。

ダーツは第一次世界大戦中に広く使用された武器でした。歩兵を攻撃するために当時の飛行機が発進し、船体を貫通することができました。第二次世界大戦中は広く使用されませんでした。

ベトナム戦争中に、米国がプラスチックのカップに詰められたダーツチャージを採用したときに、それらは再び現れました。これは、ガザとレバノン領土の両方で、イスラエルが関与している戦争で一般的な弾薬であり、敵対者が草木に隠れている地域で特に効果的です。

いくつかの人道支援団体がダーツの禁止を呼びかけていますが、今のところ禁止されていません。しかし、民間人が密集する地域での無差別殺傷兵器の使用は、戦時国際法違反にあたる。「ダーツは、密集した草木を貫通し、多数の敵兵に命中させるように設計された対人兵器である」とアムネスティは述べた。「民間の住宅地では絶対に使うべきではない」

(※)<https://codename-it.livejournal.com/953562.html>

同じタイプの金属製のダーツは、ロシア軍の手に渡った後も、ポパスナヤでの砲撃など、他のウクライナの砲撃にも現れ続けています。ロシアの従軍記者セルゲイ・ゼニン、後者の町で回収されたダーツを写真で示している。



## Dozens of Bucha civilians were killed by metal darts from Russian artillery

Forensic doctors discover fléchettes - rarely used in modern warfare - in bodies found in mass graves

<https://mpr21.info/fue-el-ejercito-ucraniano-quien-cometio-la-matanza-de-bucha/>